

28. ^{67}Ga シンチグラフィーの再評価

○小林 英敏 佐々木常雄
 仙田 宏平 松原 一仁
 改井 修 真下 伸一
 石口 恒男 大野 晶子
 斎藤 宏
 (名大・放)

本院における過去3か年間に施行された ^{67}Ga スキャン、183症例、202回実施のうち、病名不明の10症例を除く、173症例、192回実施につき、その臨床的価値について検討した。

頭頸部疾患41症例は、描出程度良好のものは、23例、56%と多く、とくに、上顎癌、咽頭癌、移行上皮腫は描出良好であった。胸部疾患59症例のうち、肺癌44症例では扁平上皮癌の描出が腺癌の描出に比較して良好であった。頭頸部、胸部を除く部位の35症例は、描出度は一般に不良であり、とくに軟部腫瘍の描出は不良であった。リンパ腫43症例のうち悪性リンパ腫41症例は、一般に描出が良好であり、原発巣以外に集積を認めた症例が17例あり、不明変巢の発見に有効であった。

以上より、他の検査法と比較して、 ^{67}Ga スキャンは悪性リンパ腫にとくに有用であると思われる。

29. ^{67}Ga シンチグラムにおける肺野集積像の検討

○仙田 宏平 佐々木常雄
 小林 英敏 松原 一仁
 改井 修 真下 伸一
 石口 恒男 大野 晶子
 斎藤 宏
 (名大・放)

^{67}Ga シンチグラムで、肺野に異常集積を示した症例について、異常集積のパターンを判読し、本検査の臨床的意義ならびに読影上の問題点を検討したところ、若干の知見が得られたので報告した。

対象は本学で過去3年間に本検査を施行した183症例で、その内肺野周辺になんらかの異常集積を認めた症例は105例であった。それら症例について、異常集積の部位を肺門部、肺内および胸壁部の3か所に分け、またその出現様式を片側性か両側性あるいは孤立性、多発性またはび漫性かに分類し、さらに集積部位ごとに集積程度を胸骨や肝の描画程度を参考にして(+)、(+)、(±)の3段階に判別した。

肺門集積を示した62例の内、25例が肺癌、17例が悪性リンパ腫であり、両疾患の間に集積様式および程度の差は明らかでなかった。また、集積程度の低い例では、胸部X線写真上ほとんど肺門リンパ節の腫大像が認められず、臨床的意義を明らかにできなかった。

肺内集積を示した44例の内、片側、孤立性集積を示した32例中20例は肺癌で、び漫性集積を示した9例中4例は悪性リンパ腫であった。後者4例中3例は化学療法を受けていた。胸壁集積を示した28例の内、26例は乳房への集積で、女性患者の半数近く、しかも閉経前の女性の大部分にこの集積像が認められた。他方、肋骨への骨転移例では前面または後面のいずれか一方だけで集積部位を判読することは困難であった。